

2019年度（第15回）精密工学会賞受賞業績の紹介

帯川利之

帯川利之氏は長年にわたり、切削加工や研削加工を中心に加工現象の研究に従事され、生産技術の分野において150編以上の論文を執筆されてきました。切削分野では有限要素法によるシミュレーション技法を確立し、難削材加工における切りくず生成過程の解明に努められてきました。最近では、マイクロフォーミングやセンサ機能を有する切削工具の開発、ジェットクーラントによる工具寿命延長など独創性にあふれる実用的な技術開発にも尽力されています。また、研削加工では砥粒破碎の確率的現象をマルコフ過程に基づいて解析するなど、斬新なモデル化にも取り組まれてきました。

帯川氏は東京工業大学教授を経て、2007年には東京大学生産技術研究所教授に転籍され、現在では、東京電機大学特別専任教授として教育と研究に従事されています。東京大学生産技術研究所では先進ものづくりシステム連携研究センターを発足させ、大型産学協同研究を推進し、航空機製造技術の高度化に貢献されました。

学会活動では精密工学会理事、同監事、さらに同副会長（2010～2011年度）を歴任されました。また、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）では、革新的設計生産技術のサブプログラムディレクターとして尽力されました。教育面においては、多くの和文書籍に加えて、2000年に切削加工に関する英語専門書を発刊し、多くの研究者から引用されています。

このように帯川利之氏が行ってきた研究・教育活動、社会貢献は日本のものづくりの発展に寄与するものであり、精密工学分野における工学的・工業的貢献は極めて大きいため、ここに精密工学会賞を贈賞いたします。



略 歴

- 1980年 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了（工学博士）
- 1987年 東京工業大学工学部助教授
- 1998年 東京工業大学工学部教授
- 2007年 東京大学生産技術研究所教授、東京工業大学名誉教授
- 2013年 東京大学生産技術研究所 先進ものづくりシステム連携研究センター長
- 2017年 東京電機大学特別専任教授、東京大学名誉教授
精密工学会フェロー（2008年度）